

—平成22年度—

事業報告書

平成23年6月

社団法人 日本私立歯科大学協会

平成22年度事業報告および収支決算報告

第72回総会（臨時）
平成23年6月29日（水）
於 KKRホテル東京

目 次

I 事業報告

1. 個別事項

(1) 歯科医師需給問題について	3
(2) 歯科医師国家試験について	8
(3) 歯科医師臨床研修について	8
(4) 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂について	10
(5) 協会の「広報戦略」について	13
(6) 私立歯科大学（学部）の財政等の現状について（平成21年版）	18
(7) 広報の発行（第60号・第61号）	18
(8) 受験生確保対策事業について	21
(9) 院内感染対策について	23
(10) 日本歯科医師会との意見交換等について	23
(11) 東日本大震災について	23

2. 会 議

(1) 総 会

・ 第70回総会（H22.6.30）	25
・ 第71回総会（H23.3.29）	29

(2) 理事会

・ 臨 時（H22.4.23）	35
・ 第1回（H22.5.28）	36
・ 臨 時（H22.6.11）	37
・ 第2回（H22.6.30）	37
・ 第3回（H22.9.30）	39
・ 第4回（H22.12.15）	41
・ 第5回（H23.2.25）	44
・ 第6回（H23.3.29）	45

(3) 部会・委員会	
①教育・研究部会	
・第1回 (H22. 6. 30)	48
・第2回 (H23. 3. 29)	48
②病院部会	
・第1回 (H22. 6. 30)	48
・第2回 (H23. 3. 29)	49
③経営部会	
・第1回 (H22. 6. 30)	49
・第2回 (H23. 3. 29)	49
④広報委員会	
・第1回 (H22. 7. 26)	50
・第2回 (H23. 1. 24)	50
⑤受験生確保対策委員会	
・第1回 (H22. 7. 13)	50
⑥研修委員会	
・第1回 (書面)	50
(4) 事務局長会議	
・第1回 (H22. 5. 8)	50
・第2回 (H23. 2. 22)	51
3. 研修会	
(1) 第32回附属病院管理運営事務研修会 (H22. 10. 14~15)	52
(2) 第8回教務研修会 (H22. 12. 7~8)	57
II 収支決算—平成22年度日本私立歯科大学協会収支決算報告書.....	63
III 平成23年度日本私立歯科大学協会事業計画.....	73
IV 平成23年度日本私立歯科大学協会収支予算.....	77
V 第19期 (H23. 4. 1~H25. 3. 31) 日本私立歯科大学協会役員及び 会長・副会長・専務理事・常務理事・監事の選任.....	79
VI 会員の異動および会員名簿.....	80
VII 資料	
1. 私立歯科大学・歯学部募集人員の推移.....	82
2. 平成22年度入試結果.....	83
3. 平成23年度私立歯科大学・歯学部入学者選抜実施計画表.....	84
4. 私立歯科大学・歯学部学費一覧.....	85
5. 平成23年度入試結果 (中間状況)	86

I 事業報告

1. 個別事項

(1) 歯科医師需給問題について

1. 平成 21 年度第 4 回理事会（H21.12.9）において、中原会長から、平成 21 年 11 月 5 日に文部科学省新木医学教育課長が訪れ、本年 8 月に文部科学省から各大学に対して行った歯学部の削減要請についての方針はこれまでどおりであるので、引き続き協力を要請する、との説明があった。

これに対し、これまで理事会で話し合われた内容である以下の点を伝えた。

- 削減は、先ず、国立大学が率先すべき事柄であるので、国立大学の明確な削減計画を示されたいこと
- 私立歯科大学・歯学部は来年度の入試状況を見たいこと
- 今年度の入学者数が募集人員に比べて 10%以上の減員となった学部に関して、減員数の 1/2 に相当する削減数は全く根拠がないこと
- 国は、今後、高齢社会が加速する我が国にとって、その中での歯科医療について国としてのビジョンを立てるべきであり、これまでのように、場当たりの歯学部の定員が多いとか少ないとかといったことでは国民の信頼を失うこと

2. 平成 22 年 4 月 23 日に臨時理事会を開催し、中原会長から、募集人員の削減問題について平成 10 年度から現在に至るまでの間の協会と文部科学省との話し合いの経緯の説明があり、引き続いて、文部科学省からの削減要請に対して如何なる形で協力できるかを協議したいとの説明があった。

これに対して、協会として一つのまとまった方針を文部科学省へ回答することに関し、加盟大学は持ち帰り、5 月 28 日開催の第 1 回理事会で改めて協議することとした。

3. 平成 22 年 4 月 30 日付けで、中原会長から、加盟大学の理事長宛に、「文部科学省からの募集人員削減要請への対応について」の意向伺いを行った。

(別記 1)

4. 平成 22 年度第 1 回理事会（H22.5.28）において、文部科学省からの削減要請に対して協会として一つのまとまった方針を文部科学省へ回答することに関して協議を行ったが意見の一致をみななかった。

5. 平成 22 年 6 月 2 日に、中原会長及び安井専務理事が文部科学省新木医学教育課長を訪ね、第 1 回理事会（H22.5.28）において協議した結論について回答を行った。

これに対して、同課長から、国立大学は削減することで固まった。については、私立大学歯学部の置かれている状況等を加盟大学の設置者である各学校法人の理事長へも近いうちに説明する機会をもちたいとの話があった。

6. 平成 22 年 6 月 11 日に臨時理事会を開催し、中原会長から、6 月 2 日に文部科学省新木医学教育課長を訪ねた件について報告があった。また、この報告内容を各理事長へ報告願いたい旨の要請があった。

7. 平成 22 年 9 月 14 日の読売新聞夕刊(全国版)に、「私立歯科大学・歯学部 17 校—14 校で入試 2 倍未満 (文科省調査)」との報道があった。(別記 2)

8. 平成 22 年度第 3 回理事会 (H22. 9. 30) において、中原会長から、文部科学省の「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」(以下、協力者会議という)について、以下の説明があった。

○ 協力者会議は、昨年 1 月 30 日に「第 1 次報告」を行った以降は未開催であったが 9 月 14 日に再開された。(別記 3)

○ 会議の冒頭、加藤高等教育局担当審議官から、法科大学院の改革を審議している中教審の特別委員会と、この協力者会議は同じ位置付けの会議であるとの説明があった。

○ 新木医学教育課長から、次の説明があった。

・ 協力者会議の目的は、昨年の第 1 次報告の内容(別記 4)をブラッシュアップすることではなく、同報告書に書かれている内容に関しての各大学の対応状況のフォローアップをすることが目的である。

そのため、協力者会議の下に「フォローアップ小委員会」を設置し、今後、同小委員会が必要に応じて、各大学のヒアリング及び実地調査を行う。(別記 5)

・ ヒアリング等の観点およびヒアリング校と実地調査校を選定する際の指標(案)は資料(別記 6)にあるとおりで、指標(案)の中では、特に、削減率 28% に対しての「(5) これまでの削減状況等」に一番のポイントを置いている。

・ 今後のスケジュールとしては、来年 3 月には結論を得る。

○ 江藤座長から、同小委員会の主査は前田新潟大学歯学部長を、委員は、私立大学関係からは、安井先生、宮崎先生、日本大学松戸歯学部の葛西先生を、国立大学関係からは九州大学の古谷野先生を、また、開業医 1 名を指名した。

なお、中原会長から、同課長は、削減問題について各学校法人の理事長にお集まりいただくことを検討していたが、それに代えて、協力者会議を再開したのではないかと推測しているとの補足説明があった。

9. 平成 22 年 11 月に、フォローアップ小委員会は、同会議の第 1 次報告 (H21. 1. 30) に対する各歯学部の取り組み状況についてヒアリングを実施した。(別記 7)

10. 平成 22 年度第 4 回理事会（H22.12.15）において、中原会長から、12 月 13 日（月）に開催された協力者会議（第 10 回）の概要について、以下の説明があった。

- 協力者会議は、実地調査対象校を 18 校（私立 14 校、国立 4 校）に決定し、来年 1 月～3 月に実施するとのことであった。
- 実地調査の目的を質問したところ、特に、臨床実習における診療参加型の状況を中心に大学現場で調査し、募集人員削減問題については必要に応じて大学側に聞きたいとの回答であった。

11. 平成 23 年 1 月～3 月にかけてフォローアップ小委員会は、協力者会議第 1 次報告（H21.1.30）及び平成 22 年 11 月に行われた各歯学部からのヒアリングを踏まえ、各歯学部の現状、対応状況を把握・分析することを目的に実地調査を実施した。

別記 4

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告(概要) 資料2
～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～(H21.1.30)

基本認識

- 臨床実習に係る時間数の減少や臨床能力の格差に加え、いわゆる大学全入時代の到来や歯科医師過剰の中での入学者の資質能力の低下や格差が指摘され、臨床能力の更なる低下等を招き、歯科医療の信頼性に関わる深刻な事態も憂慮。
- 国民から信頼される確かな臨床能力を備えた歯科医師を養成する量・質ともに適正な歯学教育について議論。第1次報告としてとりまとめたもの。

改善方策

1. 歯科医師として必要な臨床能力の確保

- 臨床実習に関し、組織的・体系的な到達目標の設定や成績評価の実施等が不十分
- 臨床実習に必要な患者の協力、歯科医師国家試験対策に迫られる状況が見られ、診療参加型の臨床実習の時間数が低下
- 診療参加型臨床実習の単位数の明記、卒業時到達目標や必要臨床実習項目の明確化
- 臨床実習終了時の各大学でのOSCE(客観的臨床能力試験)の実施
- 学外機関を活用した臨床実習の促進

2. 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施

- モデル・コア・カリキュラム、共用試験の導入の中で各大学の教育の特色が希薄化
- 共用試験の実施時期を適に医学と臨床実習に大きく分離
- 各大学の体系的な教育課程の編成の徹底、成績評価・進級判定の厳格な実施
- 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの見直し
- 歯学教育の質を保證する第三者評価の導入

3. 歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保

- 激しい受験競争が依然として存在する反面、入試の選抜機能が低下する大学も見られ、歯学部入試を巡る状況が二極化
- 歯科医師過剰が職業としての魅力の低下や臨床実習に必要な患者の確保等に影響
- 入学者受入方針の明示、入試関連情報の公開
- 面接の充実、高校との連携等、学生の適性を見極める各大学の入試の工夫
- 優れた入学者確保が困難な大学、国家試験合格率低の低い大学等の入学定員見直し

4. 未来の歯科医療を拓く研究者の養成

- 基礎と臨床が有機的に融合された研究や、患者や疾患のきめ細かな分析に基づいた研究が必要
- 学部段階から、常に自らの診断・治療技術等を検証し磨き続ける意欲や態度が必要
- 学部教育の中で実際の研究に携わる機会の拡充
- 歯学系大学院の目的や教育内容を、臨床歯科医、研究者の養成目的に応じて明確化
- 国際的に優れた若手研究者養成のため、個々の大学の枠を超え連携した拠点形成

今後の検討

- この提言を踏まえた各大学や関係機関の取組状況をフォローアップするとともに、第三者評価の導入をはじめとする歯学教育の質保証の方策等を議論
- 文部科学省は各大学の改善計画を把握し、改善を推進すること
- 文部科学省・厚生労働省が緊密に連携し、モデル・コア・カリキュラム、共用試験、国家試験、臨床研究を含め、卒前・卒後教育を一体的に捉えた検討の場の設置を要請

資料 3

フォローアップ小委員会(仮称)の取組について(案)

平成22年9月14日

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議決定

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議(以下「協力者会議」という。)のFD、フォローアップ小委員会(以下「小委員会」という。)を次のとおり設置する。

1. 設置事務
 - 大学における歯学教育の状況を分析するとともに、平成21年1月の「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 第1次報告～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～」のフォローアップを行い、必要に応じてヒアリング及び実地調査を行う。
2. 委員等
 - ① 小委員会の委員は、座長が協力者会議の委員の中から推荐するものとするほか、必要があると認める場合は、協力者会議の委員以外の方であって、大学の歯学教育について知見を有するものを委員とすることができる。
 - ② 小委員会に主査を置き、主査は委員の中から協力者会議の座長が指名する。
3. 設置期間
 - 小委員会は、調査事務が終了したときには廃止するものとする。
4. 協力者会議への報告
 - 小委員会の活動状況は、適時に協力者会議へ報告するものとする。
5. 会議の公開
 - 小委員会は原則、非公開とする。
6. その他
 - ① 小委員に関する業務は、高等教育局医学教育課において処理する。
 - ② ここに定めるもののほか、議事の手続その他小委員会の運営に関し必要な事項は、主査が小委員会に諮って定めるものとする。

別記 6

資料 4

ヒアリング等の観点について(案)

1. ヒアリングの観点(例)

歯科医師としての必要な臨床能力の確保

優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施

歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保

未来の歯科医療を拓く研究者の養成

2. ヒアリング、実地調査の実施の有無の判断のための指標(案)

- (1) 入学定員充足率
- (2) 競争倍率(受験者数/合格者数)
- (3) 留年者数等
- (4) 国家試験合格率(総数、新卒)
- (5) これまでの削減状況等

別記 7

資料 1

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議
フォローアップ小委員会 ヒアリング実施要綱

1. 目的
 - 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告を踏まえ、各歯学部の現状を分析することを目的にヒアリングを実施する。
2. 実施時期:平成22年11月24日(水)、25日(木)、29日(月)
3. チーム構成:2名以上(主査又は主査代理を含む)
4. 進め方
 - (1) 案件毎に、協事進行を務める主査又は主査代理を決定
 - (2) ヒアリングでは各歯学部から抽出された調査票等を使用
 - (3) 時間配分(1校当たり30分～40分+インタバル10分(チームミーティング5分含む))
 - ①質疑応答(30分程度)
 - ②感想・まとめ(5分程度)
 - ③チームミーティング(5分程度)
 ※時間の配分は、応じた要であり、進捗状況によって、適宜変更
 - (4) 対象校数:24校
 - (5) 1日当たりのヒアリング校数:最大12校(午前中4校、午後8校)
5. 歯学部の出発者
 - 歯学部運営に責任を持つ者(歯学部長等)及び法人の運営に携わる者(総務等)を含め5名以内
6. ヒアリング内容
 - (1) 歯科医師として必要な臨床能力の確保
 - ①臨床実習終了時の各大学でのOSCE等の実施状況
 - ②診療参加型の臨床実習の日数
 - (2) 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施
 - ①特色ある優れた取組の実施状況
 - (3) 歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保
 - ①入学定員充足計画
 - ②国家試験合格率
 - ③入学定員充足率
 - ④競争倍率
 - ⑤最低標準年限での国家試験合格率
 - (4) 未来の歯科医療を拓く研究者の養成
 - ①特色ある優れた取組の実施状況
 - (5) その他
7. ヒアリング後の対応
 - 次のいずれかに該当する歯学部を抽出し、追加のヒアリング、又は実地調査を実施する。
 - (1) 第1次報告への対応が不十分である。
 - (2) 第1次報告に開示する項目の状況に問題がある。
 - (3) その他、特に実地調査において確認することが必要な事項がある。

(2) 歯科医師国家試験について

- 厚生労働省は、平成 23 年 2 月 5 日～6 日に「第 104 回歯科医師国家試験」を実施し、3 月 22 日に合格発表を行った。

【第 104 回】

	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
新卒者	2,830 人	2,356 人	1,928 人	81.8%
全体	3,875 人	3,378 人	2,400 人	71.0%

【第 103 回】

	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
新卒者	2,772 人	2,355 人	1,921 人	81.6%
全体	3,905 人	3,465 人	2,408 人	69.5%

(3) 歯科医師臨床研修について

1. 歯科医師臨床研修の実施がほとんどの加盟大学の財政を圧迫していることから、平成 22 年 4 月に事務局長会議実施委員会から加盟大学に「歯科医師臨床研修収支等の実態調査」を依頼し、その仮集計結果が 6 月 30 日に開催された第 70 回総会、第 2 回理事会および病院部会・経営部会において報告された。
2. 平成 22 年度第 5 回理事会 (H23.2.25) において、安井専務理事から、厚生労働省の平成 23 年度歯科保健医療対策関係予算のうち、特に、歯科医師臨床研修に係る補助金が大幅に減額されたことから、近いうちに厚生労働省へ増額の要望を行いたいこと。また、一昨年から事務局長会議が実施している、加盟大学の「歯科臨床研修事業収支」および「附属病院の収支」の実態調査を来年度も継続して実施したいとの協力要請の説明があり、了承した。
3. 平成 23 年 3 月 15 日付けで、厚生労働省上條歯科保健課長宛に「歯科医師臨床研修に対する財政的支援について (要望)」を提出した。(別記 8)

歯大協発第90号
平成23年3月15日

厚生労働省医政局
歯科保健課長 上 條 英 之 殿

社団法人 日本私立歯科大学協会
会 長 中 原 泉

歯科医師臨床研修に対する財政的支援について（要望）

貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、平素、私立歯科大学・歯学部運営につきまして、格別のご支援・ご指導を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、平成18年4月から歯科医師臨床研修制度が必修化されたことに伴いまして、本協会加盟の私立歯科大学・歯学部におきましては、貴省から「臨床研修費等補助金(歯科医師)」の交付を受け、研修制度の所期の目的を達成すべく引き続き努力をしているところであります。

しかしながら、本研修が6年目を迎えます現時点において、加盟私立歯科大学・歯学部の本研修実施に係ります収支差額は、毎年、悪化の一途をたどっており、ほとんどの私立歯科大学・歯学部におきまして赤字運営となっております。

つきましては、「臨床研修費等補助金(歯科医師)」の継続交付と増額とともに、国立大学が運営費交付金に積算されていることに鑑み、研修歯科医に係る人件費について、同補助金の対象経費としていただきたく強く要望するところであります。

何卒、ご高配を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

社団法人 日本私立歯科大学協会

会 長	中 原 泉	日本歯科大学理事長・学長
	金 子 謙	東京歯科大学学長
	大 塚 吉兵衛	日本大学歯学部学長
	安 井 利 一	明海大学学長
	宮 崎 隆	昭和大学歯学部学長
	牧 村 正 治	日本大学松戸歯学部学長
	三 浦 廣 行	岩手医科大学歯学部学長
	田 村 康 夫	朝日大学歯学部学長
	小 倉 英 夫	日本歯科大学新潟生命歯学部学長
	本 田 武 司	福岡歯科大学常務理事
	有 末 眞	北海道医療大学歯学部学長
	大 野 敬	奥羽大学歯学部学長
	佐 藤 貞 雄	神奈川歯科大学学長
	小 林 馨	鶴見大学歯学部学長
	矢ヶ崎 雅	松本歯科大学理事長・学長
	小 出 忠 孝	愛知学院大学学院長
	川 添 堯 彬	大阪歯科大学理事長・学長

(4) 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂について

1. 平成 22 年度第 2 回理事会 (H22.6.30) において、中原会長から、文部科学省では歯学教育のモデル・コア・カリキュラムの改訂について検討するための委員会を発足(別記 9)させ 6 月 16 日に初会合が開催された。会議の中で、文部科学省から本年 12 月に改訂版を公表したいとのスケジュールの説明があった。

これについて、委員から、今年改訂する理由が不明なこと、また、本年 12 月にまとめるというスケジュールは拙速すぎるのではないかなどの意見があったことの説明があった。

2. 平成 22 年度第 3 回理事会 (H22.9.30) において、中原会長から、本日開催された、文部科学省モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する「連絡調整委員会」及び「専門研究委員会(医学・歯学)」の合同会議について、以下の説明があった。

- 江藤副座長から、専門研究委員会がこれまで検討を行ってきたモデル・コア・カリキュラムについての具体の改訂の内容について報告があった。

その中で、「共用試験」を臨床実習終了後に実施することを検討しているとの説明があったので、その変更の目的等を質問したが、副座長からは、変更可能な大学からということで全大学一斉の変更ではないとの説明があった。

これについて、共用試験の本来の目的が全く変わることとなり、さらに臨床実習や歯科医師国家試験との目的の違いをどうするのか問題である等の意見があった。

- なお、副座長からモデル・コア・カリキュラムの総量を増やすことは考えていないとの説明があった。

3. 平成 22 年度第 6 回理事会 (H23.3.29) において、中原会長から、3 月 2 日に文部科学省のモデル・コア・カリキュラムの改訂に関する「連絡調整委員会」が開催され、「歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂原案」について議論された。文部科学省では現在この改訂原案について調整を行っており調整が終了次第、4 月上旬を目処に改訂版を国公立大学宛に送付する予定であるとの説明があった。(別記 10)

医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な組織の設置について

(別紙)

平成19年5月30日 設 置
平成22年6月9日 一部改正
高等教育局長

「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会」委員名簿

※敬称略、五十音順

1. 目的

「医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の報告を踏まえ、医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム（以下「モデル・コア・カリキュラム」という。）の改訂に関する恒常的な組織を設置する。

2. 役割

- (1) 医師国家試験出題基準及び歯科医師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に対応した、モデル・コア・カリキュラムの改訂
- (2) 学生への教育効果の検証等、モデル・コア・カリキュラムの検証・評価
- (3) モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な調査研究
- (4) モデル・コア・カリキュラムの関係機関への通知徹底、各大学の取組状況の検証等、モデル・コア・カリキュラムの活用に必要な事項
- (5) その他モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な事項

3. 設置組織の構成等

- (1) 専門的な調査研究等を行いモデル・コア・カリキュラムの改訂の原案の作成等を行う組織（モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会と、モデル・コア・カリキュラムの改訂等を決定する組織（モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会を設置し、文部科学省が主催する。）
- (2) (1)の委員会の構成は初級のとおりとする。
- (3) 必要に応じ、調査研究等を分担させるため必要な組織を置くことができるものとする。
- (4) 必要に応じ、関係者からの意見等を聴くことができるものとする。

4. 委員

- (1) 委員については、医学教育又は歯学教育のカリキュラム、医師又は歯科医師の国家試験等について優れた識見を有する者、その他関係者のうちから選出する。
- (2) 委員の任期は、委嘱した日の属する会計年度の翌会計年度末までとする。
- (3) 必要に応じ委員を追加することができる。
- (4) 委員は兼任されることができる。

5. その他

3の組織に関する庶務は、高等教育局医学教育課が処理する。

(医療全般)

高久 史麿 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構理事長
日本医学会会長、自治医科大学長

(医学教育)

小川 秀規 社団法人日本私立医科大学協会会長、学校法人相大理事長

黒岩 義之 全国医学部長病院長会議会長、横浜国立大学医学部長

高橋 康雄 国立大学医学部長会常務委員会委員長、滋賀医科大学長

(歯学教育)

江藤 一裕 社団法人歯学系大学間共用試験実施評価機構副理事長
日本歯科医学会会長、東京医科歯科大学名誉教授

中原 泉 社団法人日本私立歯科大学協会会長、日本歯科大学理事長・学長

(行政)

新木 弘 文部科学省高等教育局医学教育課長

計7名

平成22年6月9日現在

「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会」委員名簿

※敬称略、五十音順

(医学教育)

梶井 英治 自前医科大学地域医療学センター長

北村 聖 東京大学医学教育国際協力研究センター教授

黒岩 義之 全国医学部長病院長会議会長、横浜国立大学医学部長

名川 弘一 東京大学大学院医学系研究科教授

奈良 福雄 東京医科大学歯学教育システム研究センター長

佐 信太郎 日本医学教育学会会長、名古屋大学歯学部附属病院総合診療科教授

福田康 純 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長

三上 裕司 日本医師会常任理事

光山 正雄 京都大学大学院医学研究科長・医学部長

(歯学教育)

江藤 一裕 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長

嶋田 昌彦 東京医科歯科大学教授、歯学部附属病院長

関本 和夫 日本歯科大学新潟生命歯学部教授、新潟病院長

西原 達次 九州歯科大学歯学部長

俣本 正朝 日本歯科医学教育学会理事長、東京医科歯科大学教授

宮村 一弘 日本歯科医師会副会長、愛知県歯科医師会会長

(共通)

辻本 好子 NPO法人さきあい医療人権センターCOMI理事長

邊見 公雄 日本病院団体協議会議長、全国自治体病院協議会会長

前野 一雄 読売新聞東京本社編集委員

計18名

(オブザーバー)

杉野 剛 厚生労働省医政局医事課長

日高 勝実 厚生労働省医政局歯科保健課長

平成22年6月9日現在

医学・歯学教育に係るカリキュラムの改善に向けて

～「医学教育カリキュラム検討会」及び「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」における検討結果を受けて～

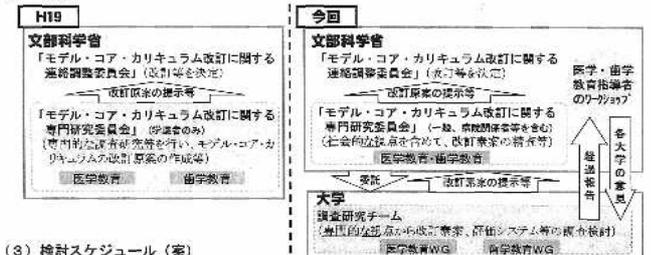
1. これまでの取組

- 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の策定
→ 学生が卒業までに最低限履修すべき教育内容をまとめた医学・歯学教育の指針（H13.3策定、H18.12一部改訂）
- 共用試験の実施（CBT（知識）、OSCE（技能））（実施主体：（社）医療系大学間共用試験実施評価機構）
→ 学生が臨床実習開始前に備えるべき能力を測定する共通の標準的評価試験（H14.4～施行、H17.4～正式実施）

2. 今後の取組

- (1) 検討内容
 - 医学教育カリキュラム検討会（H21.2～）
「臨床研修制度の見直し等を踏まえた医学教育の改善について」（H21.5）
（今後検討すべき事項）
①臨床実習の体系的・体系的な充実 ②地域の医療を担う意欲・使命感の向上
③研究マインドの涵養 ④臨床実習等に係る評価システムの確立 等
 - 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（H20.7～）
「確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策」（H21.1）
（今後検討すべき事項）
①臨床実習の体系的・体系的な実施（実習効果の評価を含む） ②研究マインドの育成 等

(2) 検討体制



(3) 検討スケジュール（案）

- 平成22年度 医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂
- 6月～7月下旬 委員会発足（公発）（委託期間：H22.7～H24.3（予定））
 - 6月16日 「連絡調整委員会（第1回）」及び「専門研究委員会（第1回）」の合同開催【キックオフ】
 - 7月22日 「医学・歯学教育指針者のためのワークショップ」の開催
 - 9月上旬 「専門研究委員会（第2回）」の開催【改訂原案の検討（委託先からの中間報告の検討）】
 - 11月下旬 「専門研究委員会（第3回）」の開催【改訂原案の検討（委託先からの最終報告の検討）】
 - 12月上旬 「連絡調整委員会（第2回）」の開催【改訂案の審議・決定】
 - 12月下旬 「モデル・コア・カリキュラム改訂版」の公表・印刷
- 平成23年度 臨床実習の実施履歴等に係る記録システムの構築

歯学教育モデル・コア・カリキュラム

一教育内容ガイドライン一

平成 22 年度改訂版

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

平成 20 年度に文部科学省主催で開催された「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（1 期一斉座談）」において、①歯科医師として必要な基礎能力の確保、②優れた歯科医師を養成する体系的歯学教育の実施、③将来的な歯科医療を担う研究者の養成の観点から、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂を行うことが提言された（平成 21 年 1 月「協会の臨床能力を備えた歯科医師養成の方策」（第 1 次報告））。

本提言を受け、平成 22 年 6 月より、歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂のための連絡調整委員会及び専門研究委員会が設置され、改訂作業は大学関係者自らが主体となり、大学の教育実態を踏まえた改訂案を検討することが適当であるとの認識の下、平成 22 年度先導的の大学改革推進事業を通じて委託された入学に、後援の大学関係者等をメンバーとする改訂作業チームが設置され、改訂作業を作成した。その内容については、歯学教育関係者、多様な関係者を含めて専門研究委員会で検討を行い、平成 23 年 3 月に連絡調整委員会において改訂内容を決定した。

今回、上記 3 つの観点を中心に改訂の検討を行い、それ以外については、歯科医師全体を取り巻く情勢変化等を踏まえ、歯科医療全般に関与することによって必要となる新しい内容について、全体の歯科医師に留意しつつ、可能な範囲で改訂し、さらに専門的かつ慎重な検討を要する事項については、今後の検討課題とした。（原注は「改訂概要」を参照）

今回の「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に当たっては、諸外国における先進的取り組み事例との比較を行い、学生が卒業時までに習得して身につけておくべき基礎的能力（competences）を「到達目標」として、客観的に評価できるような可能な限り具体的な評価目標とした。

なお、各大学において行われる具体的な歯学教育は、モデル・コア・カリキュラムを参考としつつも、診療科目の設定、教育手段や履修順序等は各大学が自主的に編成するものであり、卒業の研究室配属などの学生時代から研究者志向を醸成する教育や、歯科医関係者以外の方の声やニーズなどの授業方法の工夫など、各大学において特色ある取組が求められることが促される。

また、今回の改訂の土壌である臨床能力の習得のため、各大学・大学院が、臨床実習に参加する学生の選抜と質を確保し、患者の安全とプライバシー保護に十分配慮した上で、臨床実習開始時期の一層の充実を図ることを期待したい。

加えて、形成の医師候補等には各大学の臨床実習への協力を、また、同じ年代に他国で参加して診療が行われるという教育制度としての大学病院の歯科医師養成の役割について一層の理解を求めたい。さらに、臨床実習の充実に伴って、卒業教育に卒業論文が不可欠となることが求められる。

最後に、この改訂案が改訂版が、大学や臨床研修施設等で積極的に活用され、歯学教育の改善・充実が図られることに加え、広く社会に認知されて、国民の歯学教育への理解と協力が一層進むことを期待する。

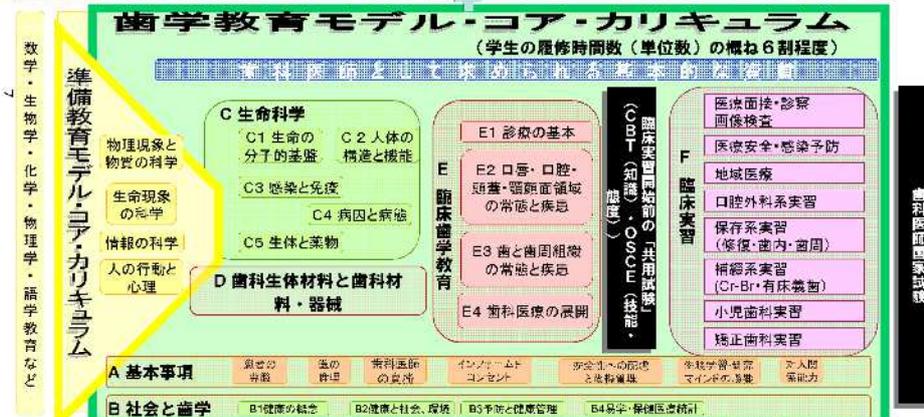
平成 23 年 3 月

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会
モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

歯学教育モデル・コア・カリキュラム (H13.3策定、H19.12、H23.3一部改訂) (概要)

- 全ての歯学部学生が卒業時までに共通して修得すべき必須の基本となる教育内容（一般目標）と到達目標を明記
- 学生の履修時間数（単位数）の概ね 6 割程度を目安としたもの（残り 4 割程度には各大学が特色ある選択制カリキュラムを実施）
- 目標に「歯科医師として求められる基本的な資質」を記載、患者中心の医療および医療の安全性確保も明記
- 歯学の基礎となる基礎科学については、別途「準備教育モデル・コア・カリキュラム」として記載

教養教育 選択的なカリキュラム(学生の履修時間数(単位数)の概ね 4 割程度) ※各大学が理念に照らして設置する独自のもの(学生が自主的に選択できるプログラムを含む)



(5) 協会の「広報戦略」について

1. 理事会の承認を得て、株式会社電通PRと協働して実施した広報事業は以下のとおり。

○平成22年5月……調査項目について加盟大学からの提案を得、「一般生活者意識調査」(「歯科医院」「歯科医師」「オーラルケア」に関する意識調査)開始

○6月……「一般生活者意識調査」の結果をメディアへリリース(1回目)
(別記11)

→産経新聞、夕刊フジ、WEB媒体(asahi.com、毎日.jp、MSN産経、YAHOOニュース、MIXIニュース)などに掲載された。

○9月……「一般生活者意識調査」の結果をメディアへリリース(2回目)
(別記12)

→WEB媒体(YAHOOニュース、MIXIニュース、Business.Media、Biglobe)などに掲載された。また、共同通信社から全国各都道府県の47主要新聞社へ記事が配信された。(34社が掲載)

○6月～9月……加盟大学から個別取材対応などの協力を得て、「ファクトブック」(～歯科医学教育に見る新たな「歯科医師像」と「歯科医療」の現状とは!?!～)を作成し、加盟大学、メディア等へ配布した。(別記13)
なお、ファクトブック関連の個別取材では、11月30日に夕刊フジが歯周病について、また、平成23年3月に読売新聞が将来の歯科に関する展望記事等を掲載した。

○10月1日……「第1回歯科プレスセミナー」(～歯科医学・歯科医療から国民生活を考える～)開催(別記14)

(会場：東京駅前の三菱ビル。全国紙始め約50名の記者が参加)

○10月～11月「個別プロモート」により、Fuji Sankei Business i、週刊エコノミストに記事が掲載された。

2. 平成22年度第6回理事会(H23.3.29)において、安井専務理事から、前回の理事会において承認された3月30日(水)開催予定の「第2回歯科プレスセミナー」およびWEBを活用しての情報発信については、東日本大震災の発生により延期することの説明があった。

3. 歯科医学・医療広報事業費について

(1) 歯科医学・医療広報事業積立資産： 40,040,000円
(平成22年10月31日現在)

(2) 平成22年度予算額： 28,390,000円

(3) 平成22年度決算額： 14,889,505円

かかりつけの「歯科医院」の満足度は「80点」
「口腔の健康」一生保てるなら「61.3万円」かけられる！
あの芸能人が歯科医師だったら…理想の歯科医師
男性では「福山雅治」、女性は「天海祐希」

社団法人日本私立歯科大学協会(東京都千代田区)は、10～70代の幅広い世代の男女1,000名(全国8エリア)に対して、6月4日～6月10日の「歯の衛生週間」を前に、「歯科診療」及び「歯科医師」に関する意識調査を行った。
 調査期間:2010年5月21日(金)～24日(月) 調査対象:10～70代の男女1,000名

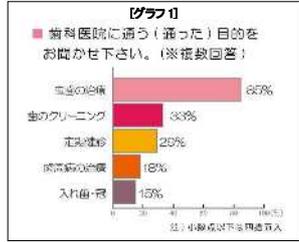
■ 1 かかりつけの「歯科医院」の満足度は「80点」

身体重要なパーツである「歯」を含む「口腔(口内)」。一生付き合っていくからこそ、健康な状態を保ちたいもの。そこで、治療や予防などで欠かせない「歯科医院」について聞いてみた。

まず、「あなたは歯科医院に通ったことがありますか?」と聞いたところ、96%と実に9割以上が「ある」と答えた。

そこで、実際に「歯科医院」に通う目的を聞くと、**最も多いのは「虫歯の治療」で 85%が答えた。次いで「歯のクリーニング」(33%)、「定期検診」(29%)の順となった。**【グラフ1】また、10代女性では18%と5人に1人が「歯列矯正」と答えている。

次に「歯科医院」を選ぶポイントとしては、「歯科医師の技術」が最も多く67%。次に「評判」(66%)、「歯科医の人格」(61%)、「立地」(54%)と続いた。20代女性にとっては「評判」(79%)が最も多く、その他「清潔感」(61%)も気になるようだ。

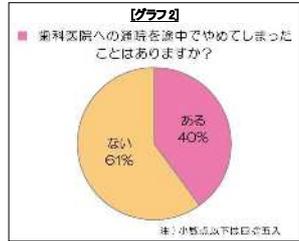


そして、実際に通ったことがある人に対し、「歯科医院への通院を途中でやめてしまったことがあるか」と質問すると、「ある」と答えたのは40%と4割で、**約6割が継続することなく通っているようだ。**【グラフ2】

さらに、「歯科医院」「歯科治療」のイメージを聞いたところ、最も多かったのが「痛い」(56%)。次いで「治療期間が長い」(55%)、「緊張する」(51%)、「診療費が高額」(44%)、「待ち時間が長い」(35%)、「怖い」(29%)と続いた。男性でも21%と5人に1人は「怖い」という認識を持っているようだ。

ちなみに、10代は他の世代と比較すると「リラックスできる」と答えた割合が圧倒的に高く、技術の進歩や環境の変化などにより、若年層にとっての「歯科医院」「歯科治療」のイメージも変わってきているようだ。

また、歯科医院に通ったことがある人のうち、69%が「かかりつけの歯科医院がある」と答えており、満足度(100点満点)を聞いたところ、**平均して80点という結果が出ている。一割こぼは、「痛い」「緊張」と言ったイメージの「歯科医院」だが、かかりつけの「歯科医院」に定期的に通うことで高い満足度が得られているようだ。**



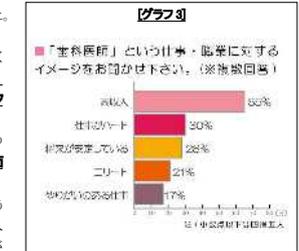
■ 歯科医師イメージ「高収入」「将来安定」…不況知らずの安定力！

次に、実際に歯科診療をしてくれる「歯科医師」に対するイメージを聞いたところ、最も多かったのが「信頼できる」で34%が答えた。次いで、「優しい」(30%)、「親しみやすい」(27%)が挙がっている。

また「歯科医師」という仕事・職業に対するイメージについて聞くと、**最も多いのは「高収入」(65%)。次いで「仕事がハード」(30%)、「将来が安定している」(28%)、「エリート」(21%)と続いた。**【グラフ3】

特に20代女性の36%と3人に1人が「エリート」、30代女性の38%と約4割が「将来が安定している」と答えており、**経済的な側面に魅力を感じる人が多いようだ。**

ちなみにこの人が歯科医師だったら、診てもらいたいと思う芸能人を聞いたところ、男性芸能人では、「福山雅治」が圧倒的人気で1位。2位は「江口洋介」、3位には「阿部寛」と「木村拓哉」が同率で選ばれている。一方で、女性芸能人で最も多かったのが「天海祐希」。以下、「松嶋菜々子」、「黒木瞳」と続いた。



■ 「口腔の健康」一生保つためにかけてもいい金額は、最大で2千万円！

そして、「日頃、どのようなオーラルケア(口腔の管理)をしているか」を聞くと、97%の人が「歯磨き」と答えた。次いで「歯間ブラシを使用」(33%)、「舌の掃除」(28%)と続き、「歯磨き」が欠かせない一方で、それ以外のオーラルケアも取り入れられている実態が分かった。

さらに、「歯並び」、「口臭」をはじめとした、他人の「オーラルケア」が気になるかを聞くと、**7割が「気になる」と回答。**【グラフ4】

具体的には、「口臭」(81%)、「歯の黄ばみ」(54%)、「歯並び」(45%)の順だった。「口臭」が気になる人は多いが、**他人の「歯の黄ばみ」についても半数以上が気になるようだ。**

一方で、自身の「オーラルケア」に関する悩みとしては「口臭」(48%)が最も多く、「歯垢・歯石」(46%)、「虫歯」(45%)、「歯の黄ばみ」(41%)と続いた。自身のオーラルケアに関しても、**約4割が、特に20、30代女性では6割以上が「歯の黄ばみ」に悩んでいる。**

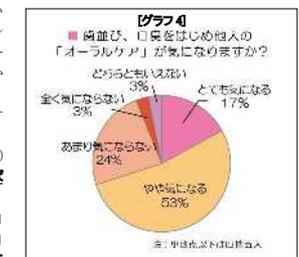
前述した「歯科医院に通う目的」でも、「歯のクリーニング」、「ホワイトニング」合計で36%で、3人に1人が答えていることから、その関心度の高さがうかがえる。

次に、「『口腔の健康』が自分の全身の健康にどの程度影響を及ぼすと思うか」を聞いてみると、77%と約8割が何らかの「影響がある」と感じており、特に29%、約3割は「非常に影響がある」と答えている。

一方で「口腔の病気」が要因となり得ると思うものを「心臓病」、「糖尿病」、「肺炎」、「皮膚炎」、「関節炎」の選択肢で聞いたところ、50%が「分からない」と答えた。「口腔の健康」が保てないと、体に何らかの影響を及ぼすと認識しているが、具体的にどんな病気に繋がるかという点では、知らない人も多いようだ。

ちなみに、「『口腔の健康』を一生保つために、いくらまでお金をかけてもいいと思うか」を聞いたところ、平均で613,245円という結果が出ている。中には、20,000,000円と答えた人もいた。

国民の間「口腔の健康」に対する意識が高まり、それに伴い「歯科診療」「歯科医師」に対するイメージ・意識も変化しつつある。今後一層、「口腔の健康」を保つためにも「歯科診療」「歯科医師」との上手な付き合いが不可欠のようだ。

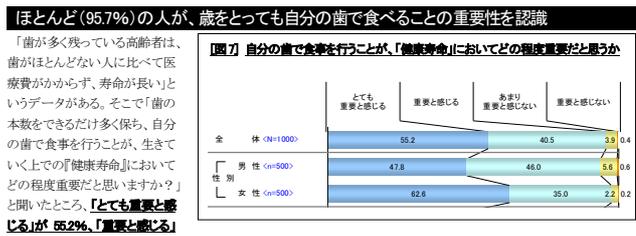


■ 本件リリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡下さい
 【リリース内容に関するお問い合わせ先】株式会社電通マーケティングソリューションズ 東京都中央区銀座2-16-7
 担当: 廣砂(まさこ) / 高橋(たかやま) TEL: 03-5565-2752 / FAX: 03-3546-2017

3. オーラルケアを含む歯科医療に関する意識

最近、口の健康が全身の健康と密接に関係していることが明らかになってきたことから、口内を清潔に保つてむし歯、歯周病を予防する「オーラルケア」（口腔の管理）の重要性が増してきて、「オーラルケア」についての意識と実態を聞いてみた。

●Q7/自分の歯で食事を行うことが、「健康寿命」においてどの程度重要だと思いますか？



「歯が多く残っている高齢者は、歯がほとんどない人に比べて医療費がかからず、寿命が長い」というデータがある。そこで「歯の本数をできるだけ多く保ち、自分の歯で食事を行うことが、生きていく上で『健康寿命』においてどの程度重要だと思いますか？」と聞いたところ、「とても重要と感じる」人が55.2%、「重要と感じる」人が40.5%であり、合わせて95.7%とほとんどの人が重要と感じていた(図7)。先進国の中でも生涯寿命と健康寿命のギャップ(要介護、寝たきりなどの期間)が大きいとされる日本では、健康寿命を生涯寿命に近づけるためにも、歯科医療の重要性について正しく認識することが必要だといえる。

性別で見ると、「とても重要と感じる」と答えた女性(62.6%)は男性(47.8%)を大きく上回っている。これは女性が日頃から家族の健康を意識していたり、介護に取り組んでいたりと健康についての情報に関心が高いことがうかがわれる。

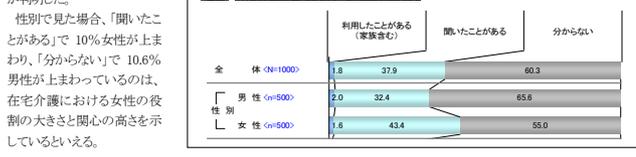
●Q8/訪問(在宅往診)歯科診療を利用したことがありますか？

訪問(在宅往診)歯科診療の利用経験あり(家族を含む)が1.8%とごくわずか

超高齢社会における在宅オーラルケアの必要性への認知がうすいと判明

「訪問(在宅往診)歯科診療を利用したことがありますか？」と聞いたところ、「利用したことがある(家族含む)人は1.8%とごくわずかである。一方、訪問歯科診療という言葉を聞いたことがあるという人は37.9%で、約4割の人が認知している。しかし、「分からない」という非認知者が8割(80.3%)を占める(図8)。

近年、厚生労働省や日本歯科医師会では、訪問(在宅往診)歯科診療の重要性について広報を強化したことから、年々利用者が増加しているが、調査結果にみるかぎり、高齢者への在宅オーラルケアに関する認識の必要性認知についていまだ十分であることが判明した。



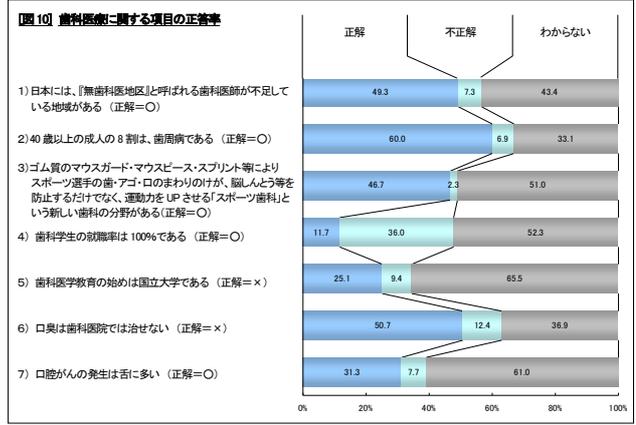
性別で見ると、「聞いたことがある」で10%女性が上まわり、「分からない」で10.6%男性が上まわっているのは、在宅介護における女性の役割の大きさと関心の高さを示しているといえる。

●Q10/歯科医療についての知識(正しいものに○、正しくないと思われるものに×で回答)

まだまだ歯科医療に関する正しい情報が伝わっていない現状が明らか

歯科医療に関する知識を聞いたところ、正答率も高かったのは「40歳以上の成人の8割は、歯周病である(正解=○)で60.0%、以下、「口臭は歯科医院では治せない(正解=×)」(50.7%)、「日本には、『無歯科医地区』と呼ばれる歯科医師が不足している地域がある(正解=○)」(48.3%)、「『スポーツ歯科』という新しい歯科の分野がある(正解=○)」(48.7%)などとなっている(図10)。

一方、「歯科学士の就職率は100%である(正解=○)」(11.7%)、「歯科医学教育の始めは国立大学である(正解=×)」(25.1%)、「口腔がんの発生は舌に多い(正解=○)」(31.3%)などが比較的正答率が低く、これらの情報はあまり国民に伝わっていないことが分かった。



大国民の「口の健康」に対する意識は高まっており、「歯科診療」「歯科医師」に対するイメージ・意識も徐々に高まっているようだ。口の健康を保つことは全身の健康にも影響を及ぼし、健康長寿や医療費抑制にもつながるので、これからはもっと「歯科診療」「歯科医師」と上手に付き合っていく必要があるだろう。

■本件リリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡下さい
 【リリース内容に関するお問い合わせ先】株式会社電通マーケティングソリューションズ 東京都中央区銀座2-16-7
 担当: 眞砂(まご) / 高橋(たか) / TEL: 03-5565-2732 / FAX: 03-3546-2017

●Q9/「口の健康」が全身の健康に及ぼす影響と具体的な病気との関連とは？

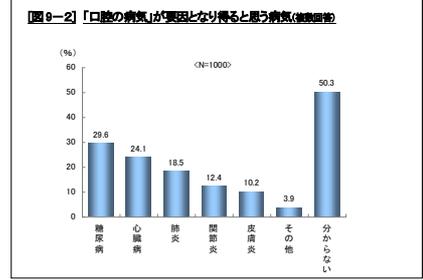
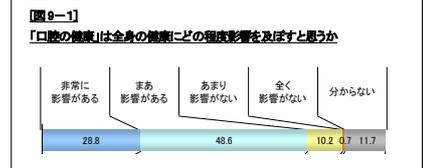
8割の人が「口の健康が全身の健康に影響する」と考えているが、具体的な知識をもっている人は半数に満たない

口の健康は、糖尿病、肺炎、心筋梗塞、低体重の出現など、さまざまな疾病等と関連があり、全身の健康と密接な関係がある。したがって、歯科診療による全身病の予防・改善は、増え続ける国民総医療費の抑制につながる考えられている。そこで「『口の健康』はあなたの健康にどの程度影響を及ぼすと思いますか？」と聞くと、「非常に影響がある」(28.8%)、「まあ影響がある」(48.6%)を合わせて8割(77.4%)の人が「影響がある」と認識をもっていた(図9-1)。

なお、「非常に影響がある」と考える理由としては「口の中が汚れていると感じる時は体調も崩しやすい」といった実体験に基づくものや、「テレビで見たので」というメディアの影響によるものも見受けられた。一方で「あまり影響がない」と答えた人は「歯についての知識がない」「関係ないと思っただけ」といった知識不足による理由が多く見られた。

次に口の健康が全身の健康に影響を及ぼすことについての具体的な知識の有無を調べるために、「口腔の病気が要因となる病気」について聞いたところ、60.3%と半数以上の人が「分からない」と答えた(図9-2)。「全身の健康にとってオーラルケアは重要である」という認識をもっているが、歯科診療によってどのような全身の疾患を予防・改善できるのかということまでは理解が及んでいない状況を示している。

具体的な疾病については、「糖尿病」は29.6%、「心臓病」は24.1%、「肺炎」は18.5%、「関節炎」(頸関節症など)は12.4%、「皮膚炎」(口内の金属製の歯科修復物による金属アレルギーなどは)10.2%の人が「口腔の病気が要因となる」と認識していた。



FACT BOOK

歯科医学教育に見る
新たな「歯科医師像」と「歯科医療」の
現状とは?!



CONTENTS

- はじめに p1
- 特集1 新たな歯科医師像 p2
 - 1. 「もし歯を失う前に歯医者に」から100 管轄の責任感へ p2
 - 2. 地域貢献、高齢者ケアで活躍する若手歯科医師や歯科医師の研鑽たち p3
 - 3. 歯科医師は女性が多くなる p3
 - 4. 専門に定む大学院生と歯科大学・歯学部のカリキュラム p9
 - 5. 歯科医大は実習生と授業生が驚くくらい異なる p11
 - (コラム) 歯科衛生士、歯科技工士とは p13
- 特集2 新たな歯科医療 p14
 - 1. 口の健康と全身疾患との関わり p14
 - 2. 先端医療チームの1員としての歯科医師の役割 p16
 - 3. 口腔外科と口腔がん p18
 - 4. 歯科矯正 p20
 - 5. 先端医療 1 歯と歯肉 p22
 - 6. 先端医療 2 インプラント治療 p24
 - (コラム) 歯のはなし p26
- 特集3 オピニオンリーダー p27
 - これからの歯科医療と歯科医師のあり方を考える p27
 - 非営利歯科医 松本 高行 院長 p27
- 特集4 歯科医師と歯科医療に関する知見を共有 p32
 - 1. 歯科医師の本質は「歯医」としての役割にどうあるか? p32
 - 2. 歯科医師の不安定性、将来生かすに備えよう p33
 - 3. 歯科医学教育の空白は私学に始まり、歯科医大の75%は私立大学 p33
 - 4. 歯科医師の健康はむしろ改善すべきではない p34
- ◎取材協力機関 p35
- ◎データで見る歯科医師と歯科医療 p37
- ◎社団法人 日本私立歯科大学協会のご挨拶 p43

社団法人 日本私立歯科大学協会

はじめに

歯科医師養成の現場から、
変ぼう著しい歯科界の“いま”をお伝えします

歯科の世界が近年大きく様変わりしてきました。しかし、その実情は、歯科界側からの情報発信不足もあって、国民の方にはほとんど伝わっていません。そこで、まずマスコミ・オピニオンリーダーの皆様には歯科医学教育において取り組んでいる、歯科の本当の姿を知っていただくため、歯科医師像と歯科医療の現状を中心として、最新の情報を掲載すべく本冊子を制作いたしました。

歯科医師は、食べる、話す、息をするといった極めて大切な機能をもつ口腔の健康を支えることで、国民のQOL 向上に重要な役割を果たしてきました。年をとっても自分の歯で噛んで食事ができるということは、人生の大きな喜びです。また、口腔の機能が健康な人は、活動的な生活を送り、医療費も少なく、元気で長生きといったデータがあります。

近年、歯科の疾病構造が変化し、主要なテーマが「むし歯の治療」から「歯周病の予防」へとシフトしてきました。さらに、むし歯と歯周病以外の分野でも歯科医師が活躍しなければならないフィールドが大きく広がっています。

最近の研究で歯周病と全身疾患（心疾患、糖尿病、肺炎など）との関連が明らかになり、口腔の健康が全身の健康と深く関わっているということが分かってきたため、歯科医師の果たすべき役割が改めて見直されています。また、超高齢社会の到来によって口腔ケア等の高齢者歯科医療の重要性が叫ばれています。さらに、国民のQOL 向上に対するニーズの変化、高度化に伴い、予防歯科やインプラント治療、再生歯科、口腔がん治療、歯科麻酔等への期待が高まっています。

こうした歯科を取り巻く環境の変化に伴い、歯科医師に求められる役割も、かつてのような「むし歯を治す歯医者さん」から「歯科医療によって人々の健康で快適な生活を守る医療人」へと大きく変わってきました。このような「むし歯を治す歯医者さん」に対する需要が減少していく一方、今後一層増加する「歯科医療によって人々の健康で快適な生活を守る医療人」という、新たな役割を担って国民の期待に対応していく重要性を考えた場合、将来的には歯科医師不足に陥っている可能性もあります。

日本私立歯科大学協会は、昭和51年に社団法人として設立しました。歯科界に対する時代の要請に応えられる有用な歯科医師を養成していくため、全国17校の私立歯科大学・歯学部が全て集まり様々な活動を展開しています。また、加盟各校では、私立ならではの自主性と自由さを生かしてそれぞれの特色を発揮しながら歯科医学教育を推進しています。

日本の歯科医学教育は、明治以来、私立学校から始まったもので、現在も歯科医師の約75%が私立大学の出身者であるなど、加盟校は歯科界に大きな役割を果たしてきましたが、本協会ではこのような経緯を踏まえながら、今後とも歯科医学教育、研究および歯科医療について積極的に情報提供を行う所存です。

マスコミ・オピニオンリーダーの皆様におかれましては、変貌著しい歯科界の現状にご理解を賜るとともに、国民の健康増進に大きく貢献する歯科医療の動向にぜひともご注目いただき、本協会並びに加盟校に対します一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

2010年9月

社団法人 日本私立歯科大学協会

会長 中原 泉

別記14

開催概要

(電通PR)

進行表

(電通PR)

■名称 ~歯科医学・歯科医療から国民生活を考える~

第1回歯科プレスセミナー

超高齢社会における歯科医師の役割とは
歯周病と全身の健康との関係性について

■主催 社団法人 日本私立歯科大学協会

■開催日 2010年10月1日(金)

■開催時間 受付:13:00~ セミナー:13:30~

■会場 コンファレンススクエア エムプラス 1階「サクセス」



■来場メディア 50名程度

中央紙・通信社(医療・生活系)、歯科業界紙、健康誌、
医学ジャーナリストおよび会員大学エリアをカバーするブロック紙・地方紙など

■出演者: 東京歯科大学 副学長 解剖学講座 井出 吉信教授(日本歯科医学会副会長)

日本大学歯学部 歯周病学講座 伊藤 公一教授(日本歯周病学会理事長)

社団法人 日本私立歯科大学協会 中原 泉会長

社団法人 日本私立歯科大学協会 金子 謙副会長

【司会】社団法人 日本私立歯科大学協会 安井 利一 副会長・専務理事

TIME	LAP	TITLE	登壇者	内容
13:00	'30	受付		■メディア受付~客席誘導
13:30	'03	開会	安井 利一 副会長・専務理事	■司会挨拶
13:33	'07	主催者挨拶①	中原 泉 会長	■代表挨拶、 協会及び歯科教育全般について紹介
13:40	'07	主催者挨拶②	金子 謙 副会長	■臨床および研究を中心に紹介
13:47	'20	協会概要紹介	安井 利一 副会長・専務理事	■協会の課題意識・活動方針・内容、 歯科大の歴史など(会員大学紹介を含む)
14:07	'35	講演①	東京歯科大学 副学長 解剖学講座 井出 吉信教授 (日本歯科医学会副会長)	■講師ご講演 (超高齢社会における歯科医師の役割とは)
14:42	'35	講演②	日本大学歯学部 歯周病学講座 伊藤 公一教授 (日本歯周病学会理事長)	■講師ご講演 (歯周病と全身の健康との関係性について)
15:17	'10	質疑応答	進行: 安井 利一 副会長・専務理事 回答: 東京歯科大学 井出 吉信教授 日本大学歯学部 伊藤 公一教授	■質疑応答
15:27	'03	閉会挨拶	安井 利一 副会長・専務理事	■15:30終了

(6) 私立歯科大学(学部)の財政等の現状について(平成21年版)

平成21年度第1回経営部会(H21.6.29)において協議し合意された項目により、加盟大学から資料の提供を受け、平成21年版を作成し、平成22年度第1回経営部会(H22.6.30)の審議を経て、加盟大学へ一部ずつ送付した。

(7) 広報の発行(第60号・第61号)

協会の広報は、年2回発行(9月と3月の予定)し、記事の内容は、可及的に簡略化し、頁数の縮減に努める。

記載事項は、

- ① 巻頭言
- ② 時事問題等についての座談会記事
- ③ 「加盟大学のニュース」として、加盟大学発行の広報誌から、行事、歯学部長・病院長以上の異動・叙勲・訃報、特色ある施設等の紹介
- ④ 「新聞記事の要点」(「教育関係」及び「歯科関係」記事のうち重要なもの)として、記事の見出し・年月日・掲載紙名の一覧
- ⑤ 協会主催会議・事業の概要
- ⑥ 協会作成資料
- ⑦ 人事異動消息
- ⑧ その他協会広報にふさわしいもの

とし、内容の充実に努める。

以上の編集方針について、広報委員会(H22.7.26およびH23.1.24開催)で審議・了承され、第60号は平成22年9月30日に、第61号は平成23年3月31日に発行した。(別記15)



日本私立歯科大学協会広報

第 60 号
平成 22 年 9 月

目次	次
＜巻頭言＞	
歯学教育と情報技術 小倉英夫……………	2
＜大学のニュース＞	
○北海道医療大学歯学部	
・第5回「一日歯医者さん」開催！……………	4
・札幌方面北警察署がSCPに感謝状を贈呈……………	4
・優秀学生顕彰 奨励賞 受賞！……………	4
・新川昭夫学長 就任にあたって……………	5
○岩手医科大学歯学部	
・岩手医科大学総合移転整備計画第二次事業・新築工事起工式並びに起工祝賀会を挙行……………	5
・平成21年度高大連携ウインターセッションが開催される……………	6
・ノーベル化学賞受賞者 下村 脩 博士を迎えてのウェットラボを開催……………	6
・役職者の就任（平成22年4月1日付）……………	7
○奥羽大学歯学部	
・大学基準協会による大学評価（認証評価）結果について……………	7
・学長就任挨拶……………	7
○明海大学歯学部	
・歯学部公開講座—歯周病は早期治療が重要—……………	8
・業務委託契約を締結—本学歯学部とICOI—……………	8
・PDI浦安に歯科用CTが設置……………	8
・歯学部生涯研修 国際レベルの歯科医療を实践 UCLAとのジョイントプログラム……………	9
○東京歯科大学	
・薬師寺 仁 副学長 日本歯科医学会会長賞を受賞……………	9
・創立120周年記念式典……………	10
・創立120周年記念祝賀会……………	10
・創立120周年記念学術講演会・第289回東京歯科大学学会……………	10
・創立120周年記念姉妹校交流会議……………	11
○昭和大学歯学部	
・歯学部5年生 臨床実習終了時OSCE—「患者型ロボット」の応用……………	11
・大野可那子さん（歯学部6年）「第23代日本さくらの女王」に選ばれる！！……………	12
○日本大学歯学部	
・SCRPアメリカ大会にて発表……………	12
・日本大学創立120周年記念シンポジウム……………	12
・シンポジウムを開催……………	13
・文部科学省国際協力イニシアティブ報告会……………	13
○日本大学松戸歯学部	
・動物歯科センター紹介……………	13
・牧村正治学部長が日本大学副総長に就任……………	13
・平成22年度新入生歓迎行事……………	14
・公開講座を開催……………	14
○日本歯科大学生命歯学部	
・伊藤菜穂助教（東京・病院）歯周病学会教育賞を受賞……………	14
・東京の附属病院 マタニティ歯科開設……………	15
○日本歯科大学新潟生命歯学部	
・タバコのない空気のきれいな街を 禁煙推進医師歯科医師連盟、学術大会と市民公開講座を開催……………	15
・2号館の教室改修工事完了……………	15
○神奈川歯科大学	
・記念シンポジウム開催される……………	16
・新任のご挨拶……………	16
○鶴見大学歯学部	
・歯学部附属病院 電子カルテ運用開始について……………	17
・全国の大学に先駆けて歯髄細胞バンクを始動—歯科界から発信する全身の再生医療への貢献……………	17
・鶴見大学・UNHCR 共同プロジェクト「庇護申請者のための歯科診療」発足……………	17
・歯塚供養……………	18
○松本歯科大学	
・中国語会話部の学生 北京へ研修旅行—北京大学口腔医学院を訪問……………	18
・創立者 故 矢ヶ崎 康先生のご業績を讃えて 在りし日の温さを偲びご冥福を祈る……………	19
・会議の後は諏訪大社御柱祭を堪能 私立歯科大学協会事務局長会議……………	21
○朝日大学歯学部	
・英語教育研究セミナーを開催—英語弁論大会25周年を記念して—……………	21
・「症例報告会」を開催—附属病院での実習成果をまとめる……………	21
・三重大学と包括的連携協定を締結—研究水準の向上をめざす……………	22
・管理者を対象としたSD研修会—事業計画の概要と本学の現状分析……………	22
○愛知学院大学歯学部	
・第13回日本顎顔面インプラント学会学術大会にて発表理事長賞を受賞……………	23
・本学歯学部、台湾の高雄醫學大学口腔醫學院と学術交流提携（姉妹提携）を締結する……………	23
○大阪歯科大学	
・小出病院教授ら 診療での音声入力システム開発……………	24
・川添泰彬理事長再任……………	24
・病院の西館3階に学生自習室を設置……………	24
・台北医学大学口腔医学院と学術交流協定を締結……………	25
○福岡歯科大学	
・口腔医学シンポジウムを開催……………	25
・「統合型実技教育実習室の新設」「眼科開設」……………	25
・病院長・情報図書館長決定……………	26
・新理事・評議員の紹介……………	26
・「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択……………	26
＜事業概要＞	
○平成21年度協会決算……………	28
○平成22年度協会事業計画……………	28
○平成22年度協会収支予算……………	31
○総会……………	32
○理事会……………	35
○部会・委員会……………	37
○事務局長会議……………	39
＜日本私立歯科大学協会関係の諸会議＞	
○第17回私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士連絡協議会……………	40
＜新聞記事の要点＞	
1. 教育関係……………	41
2. 歯科関係……………	43
＜叙勲＞……………	45
＜訃報＞……………	45
＜人事異動消息＞……………	46
＜協会役員・部会・委員会名簿＞……………	58
＜社日本私立歯科大学協会加盟名簿＞……………	60
＜編集後記＞……………	60



日本私立歯科大学協会広報

第 61 号
平成 23 年 3 月

目次	次
<巻頭言>	
新しい年を迎えて思うこと 牧村正治……………	2
<大学のニュース>	
○北海道医療大学歯学部	
・歯学部薬理学分野の谷村明彦准教授が 歯科基礎医学会のライオン学術賞を受賞……………	5
・大学院生・佐々木みづほさんが IADR で Award 受賞!!……………	5
・歯学部曾田英紀講師が Journal of Dental Research の最優秀論文賞を受賞!!……………	5
○岩手医科大学歯学部	
・ウェルカム 2010 「噛んで元気に快適生活」が 催される……………	6
・第 31 回市民公開講座が開講されました……………	6
・総合移転整備計画第二次事業進捗状況……………	6
○奥羽大学歯学部	
・外部評価委員による実地検査……………	7
・第 2 回機能性材料・製造プロセス研究会……………	7
・附属病院管理運営事務研修会……………	7
○明海大学歯学部	
・歯学部生涯研修プログラム—第 1 回 ICOI フェロー シップ養成コース—……………	7
・歯学部生涯研修—UCLA とのジョイント プログラム—……………	8
・難波智美助教が日本歯周病学会最優秀論文賞を 受賞……………	8
・北京大学口腔医学院新研究棟完成記念式典 —四半世紀に及ぶ交流 さらなる発展へ—……………	9
○東京歯科大学	
・金子 謙学長再任・新人事発令される……………	9
・創立 120 周年記念事業 本学創立 120 周年記念 DVD を作成……………	10
・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (hrc 8) 採択……………	10
・創立 120 周年記念学生行事開催……………	11
○昭和大学歯学部	
・平成 22 年度学部連携病院実習 大規模トライアル 始まる……………	11
・昭和大学学術シンポジウム ノーベル賞受賞者を 囲むフォーラム……………	12
○日本大学歯学部	
・実験動物慰霊祭……………	12
・平成 22 年度第 1 回歯学部公開講座 口腔保健と 全身の健康シリーズ (28)……………	13
・OSCE 評価者養成ワークショップ……………	13
・SCRP 日本代表選抜大会 2 位入賞……………	13
○日本大学松戸歯学部	
・平成 22 年度 全国歯科大学・歯学部附属病院長 会議の開催……………	14
・全国歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会 ……………	14
・ようこそ松戸歯学部へ……………	15
・第 37 回アジア太平洋歯科学学生会議……………	15
○日本歯科大学生命歯学部	
・発生・再生医科学, 口腔外科学会最優秀賞を ダブル受賞……………	16
・第 23 回姉妹校交換学生を実施 派遣と受け入れは 総計 327 名に……………	16
・第 100 回ワークショップ開く—両学部の連携強化 にむけて活発な討論—……………	17
○日本歯科大学新潟生命歯学部	
・IUSOH 国際姉妹校連合, バルセロナで代表者会議 を開く……………	17
・中国・四川大學華西口腔医学院 周院長ら来学……………	18
・先端研究センター, 医真歯学会優秀賞を受賞……………	18
・中山医学大学創立 50 周年記念式典 小倉新潟 生命歯学部長 名誉博士号を授与される……………	18
○神奈川歯科大学	
・歯科大の国際化に向けて韓国・青松学院と留学生 受け入れ協定締結……………	19
・横浜研修センター・横浜クリニック 開学 100 周年記念公開講座開催……………	20
・歯科大卒業生 中村清香先生にインタビュー……………	20
・KDC-SAS 真夏のタイ チェンマイで歯科検診 実施……………	21
○鶴見大学歯学部	
・木森久人研究員 (高齢者歯科学講座) 日本歯科薬 物療法学会学術奨励賞を受賞……………	22
・ペラデニア大学歯学部と学術協力校提携更新……………	22
・壇国大学校歯科大学生 国際交流で来校……………	22
○松本歯科大学	
・本学病院「がんの樹状細胞ワクチン療法」開始……………	23
・BP 製剤服用中の骨粗鬆症患者への歯科治療……………	24
・田口 明教授が松本市民公開講座で講演—歯の レントゲン写真から骨粗鬆症がわかる—……………	25
○朝日大学歯学部	
・歯学部海外研修を実施……………	25
・「優秀論文賞」を受賞……………	26
・大学教育の未来……………	26
○愛知学院大学歯学部	
・大学評価・学位授与機構評議員会 副会長に 小出学院長再任される……………	27
・第 15 回 愛知歯科保健文化賞 田中貴信 歯学部 附属病院長 受賞……………	27
・愛知学院歯学部同窓会「AGUDAA-V-フィリピン」 「第 62 回保健文化賞」を団体受賞……………	27
・愛知学院大学歯学部創立 50 周年記念事業を開催……………	27
○大阪歯科大学	
・南方医科大学学生訪問……………	28
・5 年生の岸田瑠加さんと塩谷洋子さん「SCRP 日本 選抜大会」で優勝……………	29
・吉川先生「歯のぼんそうこう」共同開発……………	29
○福岡歯科大学	
・戦略的連携支援事業「口腔医学の学問体系の 確立と医学・歯学教育体制の再考」医歯学連携演 習 TV 授業 開講……………	30
・再生医学研究センター発足/キックオフ シンポジウム開催……………	30
・口腔医学国際シンポジウム開催……………	31
・ふくおか教育フォーラム開催……………	32
<事業概要>	
○理事会……………	33
○部会・委員会……………	35
○事務局長会議……………	35
○研修会……………	36
<日本私立歯科大学協会関係の諸会議>	
○第 36 回全国私立歯科大学・歯学部附属病院 看護部長会……………	38
○第 31 回全国私立歯科大学附属病院薬剤師部長会……………	38
○第 15 回日本私立歯科大学・歯学部附属病院 歯科技工士協議会……………	38
<新聞記事の要点>	
1. 教育関係……………	39
2. 歯科関係……………	41
<叙勲>……………	44
<人事異動消息>……………	44
<第 42 回全日本歯科学学生総合体育大会の成績表>……………	47
<協会役員・部会・委員会名簿>……………	50
<社)日本私立歯科大学協会加盟名簿>……………	52
<編集後記>……………	52

(8) 受験生確保対策事業について

平成22年度第1回受験生確保対策委員会 (H22.7.13) において、協議の結果、平成22年度受験生確保対策事業においては、既存事業の見直しも図りつつ、受験生に直接働きかける新規事業を実施した。

平成22年度に実施した事業の概要は、下記のとおり。(新規事業は6のとおり)

1. 『私立大学17歯学部平成23年度入試のお知らせ』および『私立大学17歯学部問い合わせ先&アクセス一覧』(次項参照)を主要な全国の高等学校(校長及び進路指導部主事宛)に送付した。(平成22年10月)。
2. 「医歯薬進学4月号(平成23年3月)」に、『私立大学17歯学部問い合わせ先&アクセス一覧』を掲載するとともに、『新しい歯科医師の時代がやってくる!—これから歯科医師をめざすみなさんへ—』を掲載した。(2頁から3頁に増頁)
3. インターネット・ホームページによるPR
 - (1) ホームページ掲出内容
 - ① 全入試日程(加盟大学17歯学部の平成23年度入試日程一覧)
 - ② 加盟大学入試要項(加盟大学17歯学部の平成23年度入試要項)
 - ③ 入試結果報告(加盟大学17歯学部の平成22年度入試結果)
 - ④ 歯学部を目指す皆さんに(Q&A)(私立歯科大学の特長等についての一問一答)
 - ⑤ 協会の概要
 - (2) ホームページアドレス(URL)
<http://www.shikadaikyo.or.jp/>
<http://www.shikadaigakujukenjouhou.jp/>
4. 「全国医歯薬科大学受験相談会」の後援を行った。
5. 新規事業として、受験関係に実績がある「株式会社 進研アド」と協働して歯科医学、歯科医療の役割・重要性や歯科界の未来が明るいこと等々を盛り込んだ小冊子『新しい歯科医師の時代がやってくる!』を、加盟大学からの協力を得て作成し受験生に直接送付した。合わせて、小冊子の内容を加盟大学のホームページにバナーを設けるとともに協会のホームページに特設し、受験生等が直接閲覧できるようにした。(平成22年10月)(別記16)
また、ポスター『新しい歯科医師の時代がやってくる!』を作成し、加盟大学へ電子データとして提供した。(別記17)
6. 受験生確保対策事業費について
 - (1) 調査研究事業積立資産: 9,779,501 円(平成22年3月31日現在)
 - (2) 平成22年度予算額: 4,000,000 円
 - (3) 平成22年度決算額: 7,201,741 円

新しい 歯科医師の時代が やってくる!



これからの歯科医師、私たちが育てています。
社団法人 日本私立歯科大学協会

保存版
2010



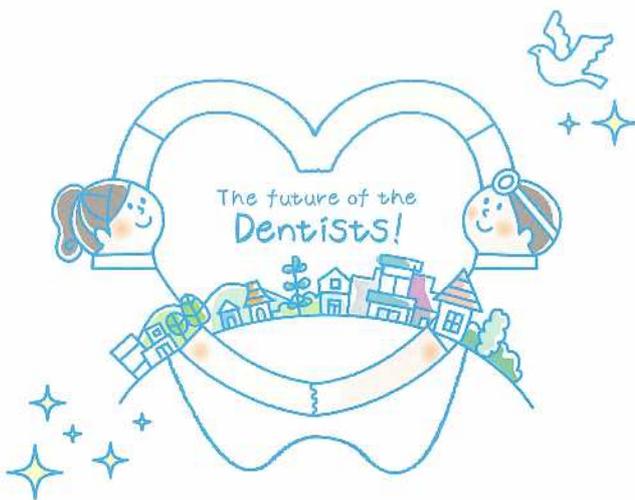
歯科医師の 未来について、 お話しします。

いま新しい時代の歯科医師が求められています。
歯科医師の仕事は“むし歯を治す歯医者さん”としてだけではなく、
口から人の健康全体に関わる“口腔の専門医”として
大きく広がっています。

この小冊子は、これから歯科医師をめざす高校生のみなさんに、
歯科医師の未来について、日々進歩する歯科医療の最新情報、
口腔領域全体のケアをはじめ、歯・口腔と全身の健康への関わり、
さらに新しい地域医療の担い手として期待される役割などを紹介し、
正しいイメージを知っていただくために作成しました。

歯科医師の仕事は、人々が日々、健康で、おいしく食べ、楽しく話し
笑うことができる生活を過ごしていただくことを手助けするために、
ますます重要となっていくことは間違いありません。

歯科医師の未来は希望とやりがいにあふれています。
歯科医師の素晴らしい未来を
ぜひ知ってほしいと願っています。



今後、歯科医師不足が予測されます。
いま以上に必要とされる存在になります。

“歯科医師が余っている”というイメージが一部に広がっていますが、それは偏った
見方といえます。歯・口腔についての疾病の広がりがや高齢化の進行、さらに予防
のための定期検診の普及などにより患者さんがますます増えることが予測され、
歯科医師の役割は大きく広がってきています。現在でも、新卒の歯科医師に対して
7倍もの求人がある私立歯学部がありますので、みなさんが歯科医師臨床研修を
経て就職する際には、求人倍率はさらにアップしているかもしれません。いま以上に
歯科医師が社会から必要とされる存在となることは間違いありません。

CONTENTS

歯科医師の未来……………01	アンチエイジング／若返り……………18
日本私立歯科大学協会からのメッセージ……………03	チーム医療／医食連携……………15
再生医療／セカンド医療／インプラント……………05	女性歯科医師の活躍……………17
口の専門家の役割……………07	歯科医師に求められる資質……………19
歯と全身との関わり……………09	歯科医師になるには?……………21
札幌圏・札幌圏 高齢者ケア……………11	私立歯科大学・歯学部一覧……………22



新しい歯科医師の 時代がやってくる!

歯科医師って、
女性にも向いている
仕事だと思う。

最先端の
歯科医療は、
ボクらがつくる。



今後、歯科医師不足が
予測されます。
今後、歯科医師不足が
予測されます。

29歳以下の歯科医師では、
40%が女性医師。
ママさん医師も
イケイケと活躍中!

患者さんに一番身近な
歯科医師として、
地域医療や高齢者ケアを
支えています!

むし歯の治療だけでなく
「口腔全体」の専門医。
口腔と全身の健康は
深くつながっています!

【私立歯科大学17歯学部／所在地・資料請求先】

北海道歯科大学歯学部 〒060-0812 札幌市東区南一条1-1-1 TEL: 011-836-2111 FAX: 011-836-2112 http://www.hokudai.ac.jp	女子医科大学歯学部 〒202-8501 東京都千代田区三軒又四 1-1-1 TEL: 03-5621-1111 FAX: 03-5621-1112 http://www.womens-u.ac.jp	医科歯科大学 〒103-8501 東京都中央区本町2-1-1 TEL: 03-3542-1111 FAX: 03-3542-1112 http://www.ikeu.ac.jp	東洋大学歯学部 〒202-8501 東京都千代田区三軒又四 1-1-1 TEL: 03-5621-1111 FAX: 03-5621-1112 http://www.toyoko-u.ac.jp	東京歯科大学 〒103-8501 東京都中央区本町2-1-1 TEL: 03-3542-1111 FAX: 03-3542-1112 http://www.tokyo-dent-u.ac.jp	南都大学歯学部 〒592-8501 大阪府大阪市東淀川区 1-1-1 TEL: 06-6601-1111 FAX: 06-6601-1112 http://www.nandai-u.ac.jp
日本大学歯学部 〒103-8501 東京都中央区本町2-1-1 TEL: 03-3542-1111 FAX: 03-3542-1112 http://www.nihon-u.ac.jp	日本大学歯学部 〒103-8501 東京都中央区本町2-1-1 TEL: 03-3542-1111 FAX: 03-3542-1112 http://www.nihon-u.ac.jp	日本歯科大学金沢医科大学歯学部 〒951-8501 石川県金沢市 1-1-1 TEL: 076-234-1111 FAX: 076-234-1112 http://www.nihon-dent-u.ac.jp	日本歯科大学秋田県立大学歯学部 〒999-8501 秋田県秋田市 1-1-1 TEL: 0182-341-1111 FAX: 0182-341-1112 http://www.nihon-dent-u.ac.jp	物産大学歯学部 〒103-8501 東京都中央区本町2-1-1 TEL: 03-3542-1111 FAX: 03-3542-1112 http://www.monbu-u.ac.jp	徳島大学歯学部 〒770-8501 徳島県徳島市 1-1-1 TEL: 087-234-1111 FAX: 087-234-1112 http://www.tokushima-u.ac.jp
聖隷医科大学歯学部 〒411-8501 静岡県静岡市 1-1-1 TEL: 054-234-1111 FAX: 054-234-1112 http://www.seirei-u.ac.jp	聖隷医科大学歯学部 〒411-8501 静岡県静岡市 1-1-1 TEL: 054-234-1111 FAX: 054-234-1112 http://www.seirei-u.ac.jp	大崎歯科大学 〒202-8501 東京都千代田区三軒又四 1-1-1 TEL: 03-5621-1111 FAX: 03-5621-1112 http://www.ohtani-u.ac.jp	富山県立大学 〒930-8501 富山県富山市 1-1-1 TEL: 076-234-1111 FAX: 076-234-1112 http://www.toyama-u.ac.jp	ここに アクセスすると 歯科医師の 未来が見える!	ここに アクセスすると 歯科医師の 未来が見える!

(9) 院内感染対策について

1. 平成 22 年度第 4 回理事会 (H22. 12. 15) において、安井専務理事から、文部科学省医学教育課から院内感染対策について日本私立歯科大学協会としても取り組まれないとの要請があったので、協会の病院部会の下に、「院内感染対策委員会(仮称)」というような組織を作り、国立大学の協議会に、この委員会委員がオブザーバーとしての参加をするなどについて、川添病院部会長と相談しながら進めたいとの提案があり、了承した。
2. 平成 23 年 1 月に、加盟大学から委員の推薦があり、3 月 29 日に文部科学省担当官が出席しての初会合を予定していたが、東日本大震災の発生により延期することとなった。

(10) 日本歯科医師会との意見交換等について

- 日本私立歯科大学協会と日本歯科医師会の間において、双方で様々な歯科界をめぐる課題について前向きに意見交換していく場として、平成 22 年 2 月 17 日に新たに発足した「連絡協議会」は、平成 22 年 6 月 29 日に本協会の多数の理事の出席のもと第 2 回目が開催された。
この連絡協議会では、特に、加盟大学の志願者・入学者の減少状況下に鑑みた自由討議が行われた。

(11) 東日本大震災について

- 平成 22 年度第 6 回理事会 (H23. 3. 29) において、安井専務理事から、東日本大震災に関して、
 - ・ 加盟大学の被害状況および加盟大学の先生が多数被災地へ応援に出かけられていること
 - ・ 厚生労働省から日本歯科医師会を通じ日本私立歯科大学協会に対して、被災地への歯科医師等の歯科医療従事者の派遣を依頼されていること(別記 18)
 - ・ 日本歯科医師会から今後における物資の送付や歯科医師の派遣については同会を通してほしいとの要請があったとの報告があった。

【 平 務 通 絡 】
平成 23 年 3 月 25 日
(地域保健課扱い)

タイムスケジュール

日本私立歯科大学協会 御中

社団法人日本歯科医師会

被災地への歯科医師等の歯科医療従事者の派遣について (依頼)

平素は、本会会務運営におきまして、格段のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、この度の東北地方太平洋沖地震につきましては、種々ご協力を賜り、重ねてお礼申し上げます。

さて、被災地において高齢者が細菌性肺炎でお亡くなりになったとの報道もされております。

この度厚生労働省医政局歯科保健課より添付のとおり、「被災地への歯科医師等の歯科医療従事者の派遣について」協力依頼が来ております。本会としては、被災地における歯科診療等の体制として、人員・機材確保のため厚生労働省に協力することとしております。

つきましては、大変お忙しい中、誠に恐縮に存じますが、被災地における歯科保健・歯科医療の重要性に鑑み、ご協力いただける内容について別紙にご記入いただき、3月30日(水)正午までに本会地域保健課まで FAX 等でご連絡いただきたく、お願い申し上げます。

なお、ご提出いただく内容については、目安としての登録であり、被災県より派遣要請があった場合には、あらためてご相談の上、決定してまいりますので、ご丁寧賜りたく併せてよろしくお願ひ申し上げます。

また、今回の派遣についてはボランティアであり、旅費・日当をはじめとする経費の支出はなされないことを申し添えます。

【添付】

○ 被災地への歯科医師等の歯科医療従事者の派遣について (依頼)
(平成 23 年 3 月 25 日付 事務連絡)

(FAX 送信 4 枚: 本状含む)

送付先
日本歯科医師会地域保健課
TEL:03-3262-0211
FAX:03-3262-9685

平 務 通 絡
平成 23 年 3 月 25 日

(別 紙)

日本歯科医師会 御中

国 姓 名 _____
担 当 者 名 _____
送 付 先 _____
E-mail _____

厚生労働省医政局歯科保健課

被災地への歯科医師等の歯科医療従事者の派遣について (依頼)

今般の東北地方太平洋沖地震については、必要な歯科医療の確保に種々御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、地震が発生して2週間程度が経過し、求められる医療の内容も災害時の救急医療から慢性疾患への対応に移行しつつあり、被災地においては、今後、歯科治療や口腔ケア等のニーズが増加する事が予想されます。

既に貴会において被災地への歯科医師等の歯科医療従事者を派遣している場合もあるかと思いますが、今後、大規模な被害の生じている県(岩手県、宮城県及び福島県)からの具体的な歯科医師等の派遣要請があった場合には、当該より貴会宛に歯科医師等の歯科医療従事者の派遣を依頼させていただきますので、できる限り御協力をいただきますよう、あらかじめお願いいたします。

※ 御協力いただける場合には、当該より岩手県、宮城県及び福島県の所管課に連絡しますので、その後貴会に対し岩手県、宮城県及び福島県の所管課から具体的な派遣の依頼があります。

※ 御協力をいただける場合には、参考とするため、現時点で対応可能であると考えられる規模について、関係団体の意見を取りまとめた、3月30日(水)正午までに別紙様式により当該まで御返願いたします。

<送付先>
厚生労働省医政局歯科保健課
歯科衛生係 和田、増田(内線4141、2684)
電話(代表) 03-3253-1111
(直通) 03-3595-2205
FAX 03-3595-6687

3/25 厚生労働省医政局歯科保健課より本会へ依頼
同日 本会より関係団体・都道府県歯科医師会へ FAX にて周知・依頼

3/25~ 関係団体・都道府県歯科医師会において派遣協力の募集

~3/30 正午 関係団体・都道府県歯科医師会より派遣協力に関する返答
本会より厚生労働省医政局歯科保健課へ登録票提出

職 種	派 遣 期 間	人 数	派 遣 可 能 日 時
歯科医師	1週間程度 2週間程度 それ以上	人	月 日 ~ 月 日頃
	1週間程度 2週間程度 それ以上	人	月 日 ~ 月 日頃
	1週間程度 2週間程度 それ以上	人	月 日 ~ 月 日頃
	1週間程度 2週間程度 それ以上	人	月 日 ~ 月 日頃
	1週間程度 2週間程度 それ以上	人	月 日 ~ 月 日頃
	1週間程度 2週間程度 それ以上	人	月 日 ~ 月 日頃

※ 期間については、該当する期間に○をつけてください。